

「空沼岳万計山荘友の会」の20年

長水 洋（空沼岳万計山荘友の会 会長）

1. 空沼岳

札幌の中心部から車で1時間。中腹の万計沼、真簾沼を経て頂上まで3時間半ほどで登ることができる山。気軽に登山を楽しめる山として札幌市民から愛され続けてきた山、それが空沼岳（1251m）です。

深い森林も魅力の一つです。200万人の都心からわずかの距離に、こんな静かなところがあるのかと思うほどです。最初は明るい針広混交林の中を歩き、万計沼辺りは針葉樹の森林に変わります。それが真簾沼辺りになるとダケカンバの林となります。広がった明るい草原をゆったりと登ると360度見渡せる頂上が待っています。

2. 万計山荘

空沼岳の中腹、登山口から2時間、標高900mの万計沼のほとり、木々に囲まれて赤いトタン屋根の万計山荘が周囲の景色にとけ込んで静かに建っています。

万計山荘は旧定山溪営林署が1965年11月24日（昭和40年）に建設した。1階108.39㎡、2階91.73㎡計200.12㎡の山荘。1986年（昭和61年）頃までは年間1300人以上の宿泊客がありましたが、1992年（平成4年）には183人まで落ち込み閉鎖されました。

しかし、空沼岳の登山者は年間15000人にも及び休憩やトイレなど山荘利用者は年間10000人にもものぼります。

札幌営林署もそのまま閉鎖するわけにもいかず、かといって、財政難から万計山荘の維持・管理が困難になる中で、札幌市や山岳関係団体等に譲渡話を打診しました。

しかし、引き受け手がなく存亡の危機に立たされてしまいました。

3. 万計山荘友の会の結成

こうした経過の中で、勤労者山岳連盟の有志から「山荘を所有することは難しくても、所有者は営林署のままで、山荘の維持・管理をボランティアで行うということなら可能ではないか」という声があがりました。

万計山荘の維持・管理をやろうではないかという人たちの思いは、「札幌近郊で最も親しまれてきた山のひとつである空沼岳。その中腹にあって30年以上に渡り登山者に愛され利用されてきた万計山荘がこのまま朽ちていくのをだまって見過ごしてはいられない。」という熱い思いがありました。

賛同者の輪はすぐに広がり、1994年（平成6年）の春から万計山荘を守るための準備活動がはじまりました。

1995年5月16日に札幌営林署との間で管理委託契約が結ばれ、5月24日に「空沼岳万計山荘友の会」の結成総会が開かれました。

「広く市民と共に万計山荘を自主的に管理することにより、万計山荘の存続を図り、空沼岳の自然を通して登山ならびに自然愛好者の交流を進める」ことを目的としました。

営林署とこのような管理委託契約を結ぶのは全国初めてのことでした。

4. 第1回万計山荘開き

結成総会に引き続いてすぐの6月11日には第一回の山荘開きが150名を越す登山愛好者が集う中で行われました。

山荘内のゴミの廃棄、林道視察など準備は大変でした。荒れた林道の整備は営林署がやってくれましたが、登山道の整備、車での資材の搬入、雲上音楽会の楽器の搬入、会場作り、徒歩での登山者の案内と仕事はたくさん。それでも皆楽しい汗をかきながらの準備作業でした。

前日10日の前夜祭。翌11日朝からの山荘開き。

開会のセレモニーからはじまり、友の会会長挨拶、来賓の挨拶、そして「雲上音楽会」。山荘の前を埋め尽くした人たちによる万計山荘の再出発を祝うエネルギーが満ちあふれました。

万計山荘開きをもちたててくれたのは開会式の後に行われた雲上音楽会に出演してくれたアンサンブルクラゲの皆さんです。ベートーベンの「田園」など9曲を演奏は、山荘一杯に入った聴衆を魅了しました。

こうして空沼岳万計山荘友の会の山荘自主管理はスタートしました。

5. 20年間の万計山荘友の会の活動

早いもので、それからまもなく20年が経ちます。友の会の活動の柱は、夏期間の6月はじめから10月いっぱいまでの間の土曜日曜の泊まり込みでの山荘管理です。山荘・トイレの清掃、登山者への対応、設置した募金箱の管理などという内容のじみな仕事です。困難な時もありましたが、80人ほどの会員が交代でそれほどの穴をあけることもなくこの20年間なんとか続けてくることができました。

毎年5月中旬には、登山や自然保護などを題材とした記念講演会を同時開催とした「友の会年次総会」を開き、6月初旬には「万計山荘開き」をこれまで常に雲上音楽会付きでおこなってきました。数多くの多彩なグループや演奏家が出演してくれて、前夜祭を含めおいに盛り上げてもらってきました。

9月の初旬には一斉作業日を設け、山荘の小さな修繕やストーブの薪材の確保、登山道の補修作業などを行い、札幌市の清掃事務所によるトイレのくみ取りを9月初旬までに終わらせました。

10月中旬には泊まり込みでの山荘じまいの作業と交流会を行って夏山シーズンの万計山荘の自主管理が終わります。

万計山荘付近は一冬に積雪4～5mにもなる場所で、そのまま放っておくと降り積もった雪の圧力で山荘がつぶされてしまう恐れもあるため、毎年2月のはじめに屋根の雪下ろしを行います。年によっては、14～15人ほどで土曜日曜の二日間が必要なほどの大仕事になります。

これらのことを20年間途絶えずに毎年つづけてきたことにより万計山荘は山荘として生きつづけてきました。

また、登山者が空沼岳登山を快適にたのしめるようにと、登山道のぬかるんだ場所の木道づくり、笹刈り、登山道上の木橋の修理など登山コースの整備・修繕にも日常的に取り組んできました。

14年の間には、登山者の事故などもありました。1996年6月、中学校の遠足登山で生徒一人が行方不明となったとき、万計山荘が対策本部として利用され、生徒は無事発見されました。1998年6月には、下山中に万計沼出口で滑落し骨折した登山者を管理当番の会員が下までかついで運び、同じ年の9月にはマミス沼で意識不明となった登山者をヘリコプターで救助という事件もありました。このときも山荘管理の会員が救助に協力するなど、万計山荘と友の会会員が協力した場面も幾度かありました。

山荘を守って行くには結構な日常的な資金が必要でした。万計山荘では、山荘維持・管理に必要な資金を確保するために山荘内に募金箱を設置し、登山者に募金の協力をお願いして集めてきました。また、登山用具点や黄金湯温泉などにも募金箱を設置し協力を呼びかけてきました。

この20年間での総額では、大きな取り組みをしたときの特別の募金活動の取り組みも加えると1500万円を超える募金を札幌市民、登山・自然愛好者、賛同する企業などからいただけてきました。

こうしたわたしたちの取り組みにマスコミも興味を示してくれて、テレビ、ラジオ、新聞などで少なくない回数にわたって報道されました。札幌市の広報などにも掲載もされました。

こうして20年間の永い期間にわたって万計山荘を札幌市民・登山・自然愛好者に愛される存在として守ってることができました。

万計山荘を守り管理してきた活動の中で、友の会の発足から現在に至るまでの全過程で、

多くの登山愛好者や札幌市民の支援と協力をいただきました。とりわけ道央地区勤労者山岳連盟のご支援をいただいております。万計山荘友の会では、この支援と協力がなかったならば空沼岳万計山荘の存続はなかったと考えています。

6. 三度にわたる山荘の改修工事

万計山荘友の会は山荘の維持・修繕にも取り組んできました。とくに大きなものでは、会発足の6年後の2001年に、長年の積雪の圧力で大きく沼側に傾いていた山荘を土台から修繕するという大補修工事を900万円かけて行いました。

山荘の自主管理を始めて2年目の1997年、山荘の傾きがひどくなったため、友の会会員の労力奉仕で土台の補強工事を始めました。しかし、素人仕事での補強修繕のため工事はうまくいかず山荘の大きな傾きはそのままという状態で、年ごとに傾きゆがみがひどくなってきていました。また、相当危険な状態にもなってきたため山荘の使用を禁止する事態にまでなりました。

このままでは山荘が倒壊してしまうとの危機感が強まり、山荘の土台を大修繕するという事業に取り組むことになりました。しかし、この事業を試算したところ800万円から900万円かかるといわれ腰がひける思いでしたが、「何とかしなければならぬ」との心意気での大きな決断でした。

友の会の力だけでは及ばない、より広い範囲の市民・登山愛好者の協力を仰ぐ必要があることから、新たに「空沼岳万計山荘を守る会」が発足され、「友の会」と「守る会」が力を合わせ必要な資金を得るための募金活動を展開しました。大改修計画は新聞でも大きく取り扱われ、数度にわたる街頭募金活動なども精力的に取り組み、数ヶ月で全国1000名を越える個人と多くの団体の方々の支援により目標とした募金額を得ることができました。

土台からの本格的な大改修工事により倒壊の危機が迫っていた万計山荘は生き返り、専門家からも土台については今後20年は太丈夫だろうと太鼓判を押される状態になりました。併せて、浸透式であったトイレを強化プラスチック製の便槽に取り替えしました。これにより、それまで沼を汚染していた汚水が沼に流れ込まないようにになりました。

また2006年には、以前から雨漏りが不安になってきていたが大改修時には資金的にとっても手が及ばないということで断念していた屋根の全面的に葺き替え工事に取り組みました。このときも募金活動に取り組み200万円をかけて工事を完成させました。

2013年には、玄関フードも設置しより快適な山荘になっています。

これらの資金は、みな労山をはじめとした登山愛好者、自然愛好者の方々からいただいたものです。これまでの募金総額は、これら改修工事分を含めると1500万円を超すに至っています。

7. 北海道山小屋フォーラムの開催

2004年10月には、北海道で初めての山小屋に関するフォーラム「北海道山小屋フォーラム」の開催を友の会が各山小屋関係者に提起し、会場の札幌市環境プラザを満杯にして成功させました。実施するにあたっては幌尻岳幌尻山荘やユーフレ小屋、近郊の銀嶺荘等の山小屋関係者や大学の研究者などが集まって実行委員会が作られました。また、行政側の環境省、北海道も報告に参加し、NHKテレビでの報道もありました。

8. 山荘管理の内容

山荘の管理は、夏期間6月初旬から10月終わりまでの土曜日曜に、80名ほどの会員が、おのおの年間1回の担当を基本とした交代制で、通常は3人ほどのグループで行っています。なお、山荘利用者の使用料は宿泊も含めて無料となっています。

管理当番の会員の基本的な仕事は、山荘内の清掃、トイレの清掃（常にきれいに掃除されたトイレは大変喜ばれている）、募金箱の設置・管理、山荘利用者への募金の依頼、ポンプによる水の確保、ストーブの火の管理、必要な薪の補充、小屋周辺の清掃・片づけ、募金の回収、登山者数の概数の把握、登山者に対する種々の対応といったもので、むずかしいものではありません。

管理当番を担当した会員にとっては、これらの与えられた仕事をこなすと共に一緒に管理当番を担当した山仲間たちと、また山荘に宿泊した利用者の人たちと酒を酌み交わし語らう一夜を楽しむ場ともなっています。

9. 年間のおもな活動スケジュール

友の会の年間スケジュールの概要は以下のような内容です。

- ① 6月初旬から10月終わりまでの土曜日曜の山荘の管理
- ② 5月中旬の友の会総会（ミニ講演会の開催）
- ③ 6月はじめの空沼岳万計山荘開き（前夜祭、雲上音楽会の開催）
- ④ 8月下旬の山荘トイレのくみ取り
- ⑤ 9月初旬の秋の管理修繕一斉作業（薪の運搬確保を含む）
- ⑥ 10月中旬の山荘じまい
- ⑦ 2月初旬の屋根の雪下ろし作業
- ⑧ 適時の登山道の修繕
- ⑨ 年間6～8回の運営委員会

10. 山荘を守るこれからの活動と展望

本年は、万計山荘の自主管理が始まって20年となります。会員がけっこう高齢化してきていて運営が大変になってくるという面もあるでしょうが、今後とも登山愛好者の協力を仰ぎ、友の会の新しい会員も増やし、「空沼岳万計山荘の存続を」という万計山荘友の会の主旨を堅持して、よりいっそう札幌市民と登山愛好者・自然愛好者に愛される万計山荘に、そして空沼岳にしていきたいと考えています。

現在、友の会の会員を大募集しております。この機会に ぜひご入会ください。

万計山荘ホームページ <http://kya.web.infoseek.co.jp>

空沼岳万計山荘の自主管理の歩み

1995年

- 5月16日 札幌営林署と空沼岳万計山荘友の会が小屋管理について申し合せ
- 24日 空沼岳万計山荘友の会結成総会
- 6月11日 第1回万計山荘開き
- 9月07日 友の会9月例会 ミニ講演 今村朋信氏「札幌近郊四方山山話」

1996年

- 5月15日 第2回総会 ミニ講演 梅沢 俊氏「北海道にもっと山小屋を」
- 6月09日 第2回万計山荘開き
- 15日 H A T - J 清掃登山 田部井淳子氏来荘
- 9月05日 9月例会 ミニ講演 高沢光雄氏「北海道の登山と山小屋」

1997年

- 2月02日 雪下ろしポンプ用水道管設置
- 4月5-6日 狭薄山～空沼岳ツアースキー縦走登山
- 5月15日 第3回総会 ミニ講演 湯浅みや氏「空沼岳と真駒内川」
- 6月08日 第3回万計山荘開き
- 9月04日 9月例会 ミニ講演 岡 孝雄氏「空沼岳の地質・地形的なりたちと札幌扇状地」

1998年

- 5月14日 第4回総会 ミニ講演 住友順子氏「札幌のバードウォッチング・空沼は野鳥の宝庫」
- 6月14日 第4回山荘開き（雨の中実施）
- 9月03日 9月例会 ミニ講演 八木健三氏「懐かしきロッキー」
- 24日 桂札幌市長が空沼岳登山、万計山荘にて休憩

1999年

- 5月13日 第5回総会 5周年記念レセプション
- 6月13日 第5回山荘開き 雲上音楽会
- 9月02日 9月例会 石塚氏講演「爺爺岳の火山」

2000年

- 1月01日 道新特集「北の再生」が万計山荘友の会を紹介
- 5月18日 第6回総会 ミニ講演 愛甲哲也氏「北海道の山小屋とトイレ」
- 9月21日 万計山荘存続のための市民集会 ミニ講演 穂積玲子氏「山とトイレ、黒岳・銀泉台における取り組み」
- 11月 「守る会」が山仲間に募金の訴え 新聞報道多数

2001年

- 4月19日 第7回総会 ミニ講演 高橋留智亜氏「チョモランマに立って」
- 28日 万計山荘大修繕工事着工
- 6月30日 万計山荘大修繕工事完工
- 7月01日 第7回山荘開き

2002年

- 5月16日 第8回総会 ミニ講演 俵 浩三氏「日高の自然・横断道路問題を考える」
- 6月09日 第8回山荘開き 雲上音楽会

2003年

- 5月15日 第9回総会 ミニ講演 市根井孝悦氏「カムイの山々」
- 6月08日 第9回山荘開き 雲上音楽会
- 8月28日 トイレ汲み取りのため林道調査 友の会・市衛生局・森林管理署

2004年

5月13日 第10回総会 ミニ講演 梅沢 俊氏「夏山に向けて」
6月13日 第10回山荘問き 雲上音楽会 野鳥観察会
10月16日 北海道山小屋フォーラムの開催

2005年

5月12日 第11回総会 ミニ講演 松本政英氏「どさん子 K2の頂上に立つ」
6月11日 第11回山荘問き 雲上音楽会
11月05日 登山口の流失橋の仮橋補強作業

2006年

5月14日 第12回総会 ミニ講演 久末真紀子氏「7大陸の頂上に立つ」
6月11日 第12回山荘問き 雲上音楽会
6月29日 登山口の仮橋改修
7月20日 山荘屋根修繕募金進発式 ミニ講演 愛甲哲也氏「国立公園管理と市民の役割」
8月23日 万計山荘第2次修繕工事（屋根改修工事）記者発表
8月30日 万計山荘第2次修繕工事（屋根改修工事）着工
9月14日 万計山荘第2次修繕工事（屋根改修工事）完了

2007年

5月17日 第13回総会 ミニ講演 佐藤信二氏「信ちゃんのヒマラヤ漫遊」
6月07日 登山口の丸太橋修理
6月10日 第13回山荘問き 雲上音楽会

2008年

5月15日 第14回総会 ミニ講演 高橋英紀氏「カリマンタンの水と森・熱帯泥炭湿地林の
火災と地球環境問題」
6月08日 第14回山荘問き 雲上音楽会

2009年

5月14日 第15回総会 ミニ講演 新妻 徹氏「万計湖のほとり」
6月07日 第15回山荘問き 雲上音楽会

2010年

5月20日 第16回総会 ミニ講演 新妻 徹氏「山からの教訓あれこれ」
6月06日 第16回山荘問き 雲上音楽会

2011年

5月12日 第17回総会 ミニ講演 小泉 章夫氏「ダウラギリ冬季初登を巡って」
6月12日 第17回山荘問き 雲上音楽会
10月7日 林道崩壊後の崩土撤去作業

2012年

5月10日 第18回総会 ミニ講演 村松 照男氏「南極昭和基地越冬いま昔」
6月10日 第18回山荘問き 雲上音楽会
9月18日 煙突掃除

2013年

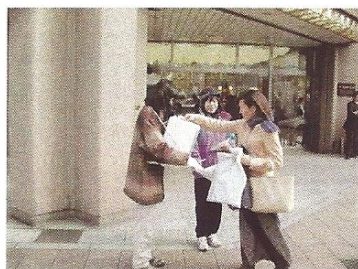
5月09日 第19回総会 ミニ講演 長水 恵氏「世界自然遺産を訪ねて」
6月09日 第19回山荘問き 雲上音楽会
8月11日 玄関フード設置

万計山荘を守る取組

1994年5月

自主管理の始まり

盛大に開かれた第1回山荘開き



街頭募金



完成後の小屋開き

空沼岳万計山荘
友の会が発足



山荘じまい
フォルクローレの夕べ

小屋の大改修

改修
工事中



10年前には屋根の
ペンキ塗りを行つたが・・

雪下ろしや登山道の整備



雪下ろし



登山口の安全確保作業



登山道の笹刈



2年前の新聞
山荘廃止の危機を報道

様々な行事



雲上音楽会
アンサンブル・クラーゲ
の皆さん